

デンカグループ
CSR報告書
2015
サイトレポート

CONTENTS

- 2 青海工場
- 4 大牟田工場
- 6 千葉工場
- 8 渋川工場
- 10 大船工場
- 12 伊勢崎工場
- 14 デンカイノベーションセンター
- 16 メルバウ工場(デンカシンガポール プライベートリミテッド)
- 17 セラヤ工場(デンカシンガポール プライベートリミテッド)
- 18 トアス工場(デンカアドバンテック プライベートリミテッド)
- 19 サウス工場(デンカアドバンテック プライベートリミテッド)
- 20 電化精細材料(蘇州)有限公司
- 21 電化新材料研発(蘇州)有限公司
- 22 電化無機材料(天津)有限公司
- 23 デンカポリマー株式会社
- 24 デンカ生研株式会社
- 25 シー・アール・ケイ株式会社
- 26 日之出化学工業株式会社
- 27 デンカアヅミン株式会社
- 28 環境パフォーマンス

できるをつくる。

Possibility of Chemistry.

青海工場



事業所概要

工場概要 1921年の設立以来、石灰石の可採埋蔵量50億トンの黒姫山、18万kWの自家発電設備などの豊富な自社資産を活かし、独特のカーバイド化学を推進しています。石灰窒素、クロロプレナム、セメントなど幅広い製品を生産するとともに、近年では無機ファインケミカル、医薬品への展開も図り、多彩な化学領域への挑戦を続けています。

- 主要製品**
- エラストマー・機能樹脂部門/クロロプレナム、ポパールほか
 - インフラ・無機材料部門/セメント、特殊混和材、カーバイド、石灰窒素、アルセンほか
 - 電子・先端プロダクツ部門/モノシランガス
 - 生活・環境プロダクツ部門/ヒアルロン酸製剤
 - その他/養鰻

所在地 新潟県糸魚川市大字青海2209 Tel.025-562-6105

従業員数 845名(2015年3月31日現在)

トップメッセージ

青海工場は、化学工場として様々な資源を原料にして社会に役立つ商品を製造しています。その過程では、危険な物、有害な物質を取り扱う必要があります。危険な物を安全に取り扱うこと、有害な物質を工場から出さないことが化学会社の使命であり、この地域で生産活動を継続していく上で最も大切な事項と考えています。

他方、企業としての社会貢献で言えば、何と言っても法人税をより多く支払うことと思っています。そのためには、利益が必要です。地方の雇用問題が叫ばれる中、雇用の確保/拡大は、CSRの重要なテーマと思っています。

いずれにしても、地域の方々との対話を重視して、利益を上げ、信頼される工場を目指していきます。



専務執行役員 青海工場長 狩野 利春

CSR方針

工場長方針

“部門が一体となった変革”により、「仕事に誇りが持てる」「やり甲斐がある」職場環境を具現化し、Denka100の目標達成に向け、もう一歩前進する。

安全・保安・衛生の確保(労働安全衛生・保安防災)

現場力強化=安全活動と捉え、行動災害の根絶と保安力強化に絞り込んだ活動を展開する。

RC活動の深耕

(環境負荷低減、物流安全、化学品・製品安全、社会との対話)

1人ひとりが環境負荷低減に繋がる課題対応に取り組み、地域を含めた社会貢献の具現化を推進する。

現場力の強化~製品毎の徹底した基盤強化

現場毎に品質・原単位・収率を意識した“つくりこみ”と業務の効率化、近代化を加速し推進する。

2014年度の活動実績と今後に向けて

安全

自然災害や工場での緊急時の災害対応として、各種防火防災訓練を行っています。大規模な地震発生と、国際テロの拡大を見据えた水際対策を想定した「姫川港総合防災訓練」へ参加しました。また、工場での防火防災訓練として、糸魚川市消防本部、地域消防団とともに「工場総合防災訓練」を実施しました。地震発生後の火災への対応として、通報・情報伝達訓練や消火・救助訓練など38項目にわたる訓練を行い、確実な緊急時対応に備えています。



テロ対策訓練での制圧・検挙訓練



工場総合防災訓練風景

環境

環境への負荷を低減するために、粉体扱い職場の発じん対策や大きな騒音の発生対策のための設備改善を実施しました。また、大規模な工場外周の景観整備を実施しました。

一方、全員参加での駐車場清掃の実施、地域の環境改善活動としての「姫川クリーン作戦」や、「青海海岸(ラベンダービーチ)の一斉清掃」活動に積極的に参加し、官民一体となった環境維持活動に努めています。

なお、引き続き、セメント設備では産業廃棄物のリサイクル利用を積極的に展開します。



姫川河川敷での清掃活動風景



海岸清掃に参加された従業員の方々

コミュニケーション

青海工場では、地域とのコミュニケーション活動の活性化を目的に地域のイベントへの参加や工場周辺地域の清掃活動などを行っており、2014年度の主な活動として「ヒスイの里山岳マラソン」の運営、地元の子どもたちを対象とした科学イベントへのブース出展、地元のお祭りである「糸魚川おまんた祭り」への参加など、地域のイベントに積極的に参加しました。



糸魚川おまんた祭りでの踊り風景



ヒスイの里山岳マラソンの運営スタッフとして参加

環境パフォーマンス

| 項目 | 単位 | 11年度実績 | 12年度実績 | 13年度実績 | 14年度実績 | 15年度目標 |
|------------------------------|-----------------|---------|---------|---------|--------|---------|
| エネルギー原単位 | 90年度比 | 0.96 | 0.94 | 0.90 | 0.91 | 0.93 |
| CO ₂ 排出量(エネルギー起源) | 万トン | 77 | 83 | 84 | 85 | 93 |
| PRTR法対象物質排出量 | トン | 17 | 18 | 14 | 14 | 11 |
| NO _x 排出量 | トン | 2,820 | 2,940 | 3,390 | 3,209 | 3,015 |
| SO _x 排出量 | トン | 94 | 81 | 61 | 45 | 55 |
| ばいじん排出量 | トン | 114 | 86 | 67 | 65 | 119 |
| 水利用量 | 千m ³ | 67,200 | 64,000 | 63,000 | 62,925 | — |
| COD(BOD)排出量 | トン | 1,270 | 850 | 850 | 743 | 743 |
| 産業廃棄物発生量 | トン | 105,200 | 109,870 | 101,260 | 93,768 | 115,425 |
| 廃棄物最終処分量 | トン | 143 | 100 | 69 | 60 | 130 |

大牟田工場



事業所概要

工場概要 大牟田工場は1916年に当社として最初に建設された工場です。カーバイド、石灰窒素の製造からスタートし、無機化学品の製造拠点として独自の電炉技術、高温制御技術、窒化技術をベースにユニークな製品を数多く生み出してきました。現在は、ファインセラミックス、電子材料領域の事業を強化しています。エレクトロニクス、自動車産業など幅広い産業の発展に貢献していきます。

主要製品

- インフラ・無機材料部門／カルシウムカーバイド、石灰窒素、鉄鋼用耐火物、アルミナセメント、特殊混和材
- エラストマー・機能樹脂部門／アセチレンブラック
- 電子・先端プロダクツ部門／熔融シリカファイバー、球状アルミナ、窒化けい素、窒化ほう素、セラミックス系電子回路基板、電子部品用放熱シート、セラミックス複合体、LED用蛍光体

所在地 福岡県大牟田市新開町1 Tel.0944-52-1055

従業員数 627名(2015年3月31日現在)

トップメッセージ

工場運営で最も大切なステークホルダーは、工場で働く方々であると考えています。お取引先さまや地域の方々をはじめとする社会はもちろんのこと、自然環境維持の視点からも、私どもの活動が認められるのは、無事故・無災害で明るく元気に働ける職場であることが前提となると受け止めています。大牟田工場は来年100周年の節目の年を迎えます。次の100年を見据え「できるをつくる。」の気持ちを持ち、時代の流れに埋没することのない新たな大牟田工場作りを目指し、まい進してまいります。



執行役員 大牟田工場長 平野 秀樹

CSR方針

2015年度 工場長方針

1. 変化に強い工場

- ① 新たな製品を増やす
- ② 材料は効率良く使う
- ③ 外に頼らず仕事を増やす

2. 保安・安全は無事故・無災害が目標

- ① 場内で働く人は大牟田工場の従業員
- ② 緊張感を持ち作業
- ③ 管理者は危険予知、作業者の行動に責任を持つ
- ④ 安全は一人ひとりが意識する

3. 品質はトップの技術勝負

- ① 品質は技術力の評価
- ② 苦情・クレーム再発を防止し、顧客信用を得る
- ③ 品質はプロセスでつくり、合否は機械で判定

4. 新たな価値を創造し未来に繋げる

- ① 付加価値重視の研究推進
- ② お客様の要望の実現に取り組み、成果は収益に反映
- ③ 研究目標は数値化し、納期は厳守

2014年度の活動実績と今後に向けて

安全

当工場では、生産プロセスに関する安全対策を検討する保安会議、安全診断をはじめとした生産活動のための安全会議を行い、事故災害を未然に防止しています。

また、万が一の災害発生に備え、公設消防とともに防災訓練を行いました。

さらに、工場で働く従業員を対象とした警察署による安全講話やドライブシミュレーターを用いた交通安全の啓発活動を行いました。

今後も引き続き、無事故・無災害を達成するために、一人ひとりが常に安全を意識し、緊張感をもって作業に取り組みま



大牟田市消防参加の総合防災訓練 大牟田警察署指導によるドライブシミュレーター教育

環境

当工場は大きなエネルギーと生産のために多くの資源を必要とする生産プロセスが多く存在するため、積極的な省エネルギーと環境負荷低減の対策を推進すると共に、

資源のリサイクルも含めた廃棄物の削減を進めました。今後も引き続き、これらの対策を推し進めていきます。

コミュニケーション

① 子ども化学教室の実施

市内公民館や小学校にて、特別授業や親子レクリエーションとして、地元小学生を対象とした化学教室を実施しました。(延べ5回)

また、大牟田市主催「おおむたエコタウンフェア」で化学教室を開催し、多くの参加者に楽しんで頂きました。(11/9)

② 「おおむた大蛇山まつり」参加

市内最大規模の夏祭りである「おおむた大蛇山まつり」の「一万人の総踊り」に従業員約100名で参加しました。(7/26)

③ 工場見学

高校生や農業協同組合、工場近隣の公民館の方々などをお招きし、当社に対する理解を深めて頂きました。

④ 献血活動

2回の献血活動を実施し、2014年度は延べ266名が参加しました。(6月、12月)

⑤ 清掃ボランティア活動

春と秋の年2回、地域公民館と合同で清掃ボランティア活動を実施し、年2回行われる大牟田市主催の「列島グリーンキャンペーン」にも参加しました。

今後も、清掃ボランティア活動や子ども化学教室、募金参加といった地域貢献活動を積極的に実施していきます。



おおむた大蛇山まつり 市内の高校生による工場見学



献血活動 工場近隣住民との清掃ボランティア

環境パフォーマンス

| 項目 | 単位 | 11年度実績 | 12年度実績 | 13年度実績 | 14年度実績 | 15年度目標 |
|------------------------------|-----------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| エネルギー原単位 | 90年度比 | 0.90 | 0.94 | 0.94 | 0.88 | 0.87 |
| CO ₂ 排出量(エネルギー起源) | 万トン | 11 | 13 | 12 | 16 | 16 |
| PRTR法対象物質排出量 | トン | 25 | 7 | 7 | 8 | 8 |
| NO _x 排出量 | トン | 940 | 850 | 788 | 786 | 794 |
| SO _x 排出量 | トン | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| ばいじん排出量 | トン | 6 | 3 | 5 | 6 | 4 |
| 水利用量 | 千m ³ | 1,390 | 1,220 | 1,190 | 1,205 | — |
| COD(BOD)排出量 | トン | 2 | 1 | 1 | 2 | 1 |
| 産業廃棄物発生量 | トン | 13,600 | 7,400 | 8,680 | 12,903 | 4,617 |
| 廃棄物最終処分量 | トン | 39 | 22 | 72 | 25 | 15 |

千葉工場



事業所概要

工場概要 デンカの石油化学事業の拠点である千葉工場は、スチレンモノマーを源流としたポリスチレン、ABS樹脂、SBC樹脂、透明樹脂などスチレン系樹脂、EVAエマルジョン、アクリル系ゴムなどの石油化学系製品と、OPSシートや塩ビテープ、住設・環境資材などの樹脂加工製品を製造しています。

主要製品 ● エラストマー・機能樹脂部門 / 超高純度アセチレンブラック、スチレンモノマー、ポリスチレン[®]、ABS樹脂、透明樹脂、耐熱性樹脂、SBC樹脂「クリアレン[®]」、EVAエマルジョン、ERゴムなど(※東洋スチレン(株)製品)

● 生活・環境プロダクツ部門 / 食品包材、住設・環境資材、塩ビテープなど

所在地 [千葉工場] 千葉県市原市五井南海岸6 Tel.0436-26-3200
[美唄分工場] 北海道美唄市東五条北10-1-1 Tel.0126-62-1444

従業員数 471名(2015年3月31日現在)

トップメッセージ

デンカが創立100周年を迎えた本年、千葉工場は操業50周年を迎えました。従業員一同これを誇りとするとともに、工場が常に地域・社会と共にあり、地域の皆さまに支えていただいていることに、深く感謝申し上げる次第です。

千葉工場が次の50年も発展・存続して地域・社会に貢献して信頼されるものづくりの場であるためには、「環境および安全の確保」が生産活動の大前提であることを、工場全員が改めて再認識すると共に、「Denkaの行動指針」のもと、社会的責任を全うして、以下の活動に地道に取り組んでまいります。

- 法令遵守
- 現場力の強化=人財の育成
技術・技能・Know-Whyを含む経験の伝承および当事者意識の醸成
- 保安、安全衛生、環境、品質の各管理システムの活用と継続的改善
- 省エネ・省資源およびその他の環境負荷低減
- 地域・社会への貢献活動



執行役員 千葉工場長 小泉 健

CSR方針

»» 2015年度 工場長方針

- 「Advanced CHIBA50」運動の推進：
石化事業の生き残りをかけてコスト総点検と事業構造の改革・転換を着実に進め、新製品・新規事業に積極的にチャレンジして、千葉工場の次の50年の礎を築く。
- 安全衛生と保安防災をすべての事業活動において最優先とし、明るく元気な職場づくりに努める
- 人財の育成：主体性と積極性のある人財の育成と、技術・技能・経験の継承と進化(深化)
- 高品質の確保と、CSR活動の積極的推進による信用と信頼の構築

2014年度の活動実績と今後に向けて

安全

事故・災害防止のために各職場および部門毎に、自職場・部門の特性・実状にあった課題や手法を考慮し、課長・グループリーダーが主体となり自主的かつ積極的な安全活動を推進しています。10月にはキックオフ大会を開催し、全部門の課長・グループリーダーから、自部門の活動計画や意気込みなどの「安全活動宣言」を行い、「絶対に事故・災害は起こさない、起こさせない。」という強い決意を

表明しました。

今後も保安管理・安全衛生管理システムの継続的な改善と安全・安定操業の実践を進め、安全文化の醸成と、保安・安全活動の推進に努めます。



キックオフ大会

環境

コンボ共和国行政職員 環境保全活動視察

バルカン半島中部にあるコンボ共和国(旧ユーゴ)の女性職員、ルーリエタ・アリフィさんが、自治体研修の一環として、民間事業者による環境保全の取り組み等について理解を深めるため、千葉工場を訪れました。



コンボ職員視察①

千葉工場の概況、RC活動全般について説明した後、VOC回収設備、総合排水処理設備を案内しました。総合排水処



コンボ職員視察②

理設備では、汚れた排水がきれいになっていく様子を順に追って見学し、千葉工場の環境保全への取り組みについて理解していただきました。

環境負荷物質(PTRR大気排出)の削減

一部の製造設備の休廃止および環境負荷物質使用量の削減、種々の排出抑制対策の継続により、大気への排出量を前年度比30%削減しました。

これからも環境中期計画の達成を目標に、省エネルギー、資源の有効利用(廃棄物の削減)、環境負荷物質の削減に努め、地球温暖化防止を推進します。地域住民、行政との連携を深めながら環境改善活動に積極的に取り組みます。

コミュニケーション

地域の皆さんとお互いに理解を深め、連帯感を醸成するため「五井臨海まつり」をはじめ、「上総いちほら国府祭り」等の行事や諸会合に積極的に参加しています。また、地元五井小学校5年生150名や市原市シルバーカレッジの方々をはじめとする

各種団体等の工場見学やインターンシッ



五井臨海まつり



上総いちほら国府祭り

プ(就業体験)実習生を受け入れ、工場への理解を深めていただいています。

2014年度は初めて、市原市の後援をいただき、臨海部コンビナートで働く男性と一般公募した女性との出会いの場として、「婚活 in コンビナート」を臨海部五井地区コンビナート各社と開催しました。

今後も地域との共生と信頼強化に努めていきます。



市原市シルバーカレッジの方々の見学

環境パフォーマンス

| 項目 | 単位 | 11年度実績 | 12年度実績 | 13年度実績 | 14年度実績 | 15年度目標 |
|------------------------------|-----------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| エネルギー原単位 | 90年度比 | 0.89 | 0.96 | 0.91 | 0.86 | 0.88 |
| CO ₂ 排出量(エネルギー起源) | 万トン | 46 | 34 | 33 | 27 | 32 |
| PTRR法対象物質排出量 | トン | 92 | 73 | 66 | 50 | 63 |
| NOx排出量 | トン | 479 | 260 | 263 | 245 | 216 |
| SOx排出量 | トン | 122 | 33 | 20 | 16 | 12 |
| ばいじん排出量 | トン | 8 | 3 | 0.9 | 1 | 2 |
| 水利用量 | 千m ³ | 9,690 | 9,580 | 9,600 | 3,457 | — |
| COD(BOD)排出量 | トン | 22 | 13 | 10 | 12 | 20 |
| 産業廃棄物発生量 | トン | 18,100 | 14,280 | 12,860 | 11,719 | 11,763 |
| 廃棄物最終処分量 | トン | 23 | 39 | 52 | 55 | 18 |

渋川工場



事業所概要

工場概要 渋川工場は1951年に塩化ビニル系樹脂の製造拠点として開設されました。1976年に構造用接着剤「ハードロック[®]」の製造を開始、1984年には電子材料事業に本格参入して事業領域の転換が進み、現在は、電子回路基板、放熱部材、エミッター、構造用接着剤、仮固定用接着剤や半導体プロセス関連製品などのエレクトロニクス関連製品の生産に特化しています。デンカの有機系電子材料の中核拠点として、成長戦略の一翼を担っています。

主要製品 ●電子・先端プロダクツ部門/高熱伝導性アルミニウム基板[ヒットプレート[®]]、放熱部材[放熱スパーサー]、熱陰極源[TFE[®]] [LaB6カソード]、機能性粘着フィルム[エレグリップ[®]]、構造用接着剤「ハードロック[®]」、光硬化型接着剤「ハードロック[®] OP/UV」、仮固定用接着剤「テンプロック[®]」

所在地 群馬県渋川市中村1135 Tel.0279-25-2109

従業員数 386名(2015年3月31日現在)

トップメッセージ

渋川工場では昨年、災害が1件、火災が1件発生いたしました。災害そのものは、軽傷で済み、また火災については、近隣住民、企業の方々にご心配をお掛けしましたが、発見が早かったため、大事には至りませんでした。災害の発生からは1年が経過しましたが、今一度、気のゆるみがないか、工場で働く全従業員の安全を最優先に企業活動を行っていきます。

当工場は全従業員が安全で安心して働ける、明るく元気な職場づくりを目指しており、そのためには一人ひとりの安全意識の向上が不可欠です。当工場の人財育成の基本は、『すべての活動の源は、人づくりであり、一人ひとりが第一人称で意識し活動すること』です。

当社は、今年創業100周年を迎えました。次の100年に向け、社会から地域から信頼される工場を目指したいと思います。



渋川工場長
電子・先端プロダクツ部門長補佐
渡邊 祥二郎

CSR方針

- ① 法令遵守の徹底
- ② 工場で働く一人ひとりが安全で安心して、明るく元気に働ける風土を作る
- ③ 行政・地域とのコミュニケーション強化

2014年度の活動実績と今後に向けて

安全

渋川工場では、2013年に『規律訓練室』及び『保全訓練室』を設置しました。『規律訓練室』では、指差呼称の重要性を実感するための実地訓練を行い、『保全訓練室』では、実際の機械を使った訓練を通じて、安全意識の向上を図っています。

また、渋川市内の大同特殊鋼(株)の協力をいただき、同社の『危険体感塾』の受講も継続して行いました。

今後は従来の活動に加えて、規律訓練室を利用した女子従業員向けの教育やAED教育なども行う予定です。



規律訓練室(座学)



規律訓練

環境

当工場では、旧八木原分工場跡地の有効活用とクリーンエネルギーの利用推進を目的にメガソーラー(DENKAソーラーパワーしづかわ)を稼働させています。発電出力は、2.2メガワットで、一般家庭が1年間で使用する電気の800世帯分の発電を行っています。

引き続き工場全体で省資源化、省エネルギー化及びCO₂の排出量の削減に取り組んでいきます。(全量を東京電力株式会社へ供給)



DENKAソーラーパワーしづかわ

コミュニケーション

当工場では、毎年、夏休みを利用して、地元の小学校を往訪し、理科実験教室を行っています。2014年は、渋川市内の2校の小学校で『マイペットボトルづくり』『いろいろスライム』『人エイクラづくり』などの実験を行いました。実験教室の講師役は渋川工場の若手研究部員が務めました。地元の子どもたちに理科に興味を持ってもらえるように、今後も工夫を凝らしながら継続していきます。



理科実験教室

環境パフォーマンス

| 項目 | 単位 | 11年度実績 | 12年度実績 | 13年度実績 | 14年度実績 | 15年度目標 |
|------------------------------|-----------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| エネルギー原単位 | 90年度比 | 0.78 | 0.78 | 0.83 | 0.84 | 0.66 |
| CO ₂ 排出量(エネルギー起源) | 万トン | 1 | 1 | 0.7 | 0.8 | 0.8 |
| PRTR法対象物質排出量 | トン | 4 | 4 | 3 | 3 | 5 |
| NO _x 排出量 | トン | 6 | 5 | 11 | 11 | 9 |
| SO _x 排出量 | トン | 1 | 1 | 2 | 3 | 1 |
| ばいじん排出量 | トン | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 水利用量 | 千m ³ | 2,520 | 2,460 | 2,400 | 2,294 | 2,220 |
| COD(BOD)排出量 | トン | 3 | 3 | 4 | 3 | 2 |
| 産業廃棄物発生量 | トン | 416 | 369 | 382 | 384 | 410 |
| 廃棄物最終処分量 | トン | 2 | 1 | 1 | 2 | 2 |

大船工場



事業所概要

工場概要 大船工場は押出成形・粘着塗工・製膜加工における先進的な技術を活かした製品を生産しています。世界的ブランドとなったウィッグ・ヘアピース用の合成繊維原糸「トヨカロン®」、手切れ性などの機能性に特長を持つ包装テープ、横切れ性ポリエチレンフィルム「Yフィルム」などの多彩な製品を製造する樹脂加工製品の核拠点です。

主要製品 ●生活・環境プロダクツ部門/ウィッグ・ヘアピース用合成繊維、包装資材、機能性フィルムなど

所在地 神奈川県鎌倉市台2-13-1 Tel.0467-45-1110

従業員数 187名(2015年3月31日現在)

トップメッセージ

「日本を代表する文化・歴史・環境を持つ鎌倉市に立地する大船工場として、地域社会への貢献と共生を目指す」を理念に掲げ、地域社会との対話・交流を積極的に推進しています。

安全活動では、工場で働くすべての仲間の安全を守るという意識を工場全体に浸透させるため、『ご安全に!』の挨拶運動を進めています。安全で安心して働ける職場環境づくりを進めています。

環境活動では、生産プロセスの見直しにより、省エネ、温暖化ガスの削減、廃棄物の削減につながる改善を進めています。また、研究開発では、生産から廃棄に至るすべてのライフサイクルにおいて、地球環境の改善につながる製品づくりを念頭に進めています。



大船工場長 高橋 和男

CSR方針

»» 2015年度 工場長方針

『工場一丸となって、信頼と協力で築こう安全文化、熱意と技術で拓こう未来』をスローガンとして、『Denka 100』新成長戦略に沿って、信頼と協力の関係の中、一人ひとりが自らの意識を変革し、目標に向け積極的にチャレンジする精神を発揮するため、以下の4項目を推進していきます。

- ①安全・保安・衛生の確保
- ②RC活動の深耕
- ③現場力の強化と開発推進による工場基盤の強化
- ④熱意と技術による取り組み

2014年度の活動実績と今後に向けて

安全

樹脂加工工場特有の刃物による災害を撲滅するために工場内の全部門からなる“刃物取扱い作業災害撲滅委員会”を組織しています。各現場での作業を確認するとともに、これまでとは異なった視点でリスクを洗い出し、委員会としての対策案の提言をまとめました。

また、「大船安全道場」の体感研修を他事業所にも公開しており、本年は全社保全課長会、千葉工場設備部会からの研修や見学を受け入れました。



刃物取扱い作業災害撲滅委員会 大船安全道場

環境

生産プロセスの見直しや近代化による省エネを進めています。2014年度は蒸気量の適正化、コンプレッサー容量の見直し等により原単位の削減目標(年率1%減)を達成しました。

また市街地に立地する工場として、近隣住民からの環境情報に対する迅速な対応を心がけています。定期的に工場周辺の環境自主測定を行うとともに、守衛所を窓口として、住民の皆さまに迅速に情報を伝えられるように、

体制を整備しています。

2013年度比省エネ効果

| | 2014年度(前年度比) | |
|----------|--------------|-------------|
| | 目標 | 実績 |
| 電力原単位 | 0.99 | 0.93 |
| 蒸気原単位 | 0.99 | 0.94 |
| エネルギー原単位 | 0.99 | 0.93 |

1%減目標

コミュニケーション

地域交流と社会活動を積極的に進めています。2014年度も7月5日の近隣町内会の夏祭りに工場正門の広場を提供し、模擬店の出店や軽音楽部による演奏などを通じて近隣住民の皆さまとの交流を深めました。

また、10月8日・10日に地元小学校3年生(117名)、11月6日にはグループ校外活動として、地元中学校1年生(8名)、11月26日にも地元小学校3年生(57名)が工場見学に訪れました。

後日、見学した小・中学生から感想やお礼の寄せ書きが届き、当工場を知ってもらった良い機会となりました。今後も地域社会との対話・交流を推進していきます。



地元中学生の工場見学

環境パフォーマンス

| 項目 | 単位 | 11年度実績 | 12年度実績 | 13年度実績 | 14年度実績 | 15年度目標 |
|------------------------------|-----------------|--------|--------|--------|-------------|--------|
| エネルギー原単位 | 02年度比 | 0.75 | 0.77 | 0.78 | 0.72 | 0.72 |
| CO ₂ 排出量(エネルギー起源) | 万トン | 1 | 1 | 0.8 | 0.8 | 0.8 |
| PRTR法対象物質排出量 | トン | 1 | 1 | 0 | 1 | 1 |
| NO _x 排出量 | トン | 2 | 2 | 2 | 1 | 2 |
| SO _x 排出量 | トン | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| ばいじん排出量 | トン | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 水利用量 | 千m ³ | 59 | 51 | 46 | 42 | — |
| COD(BOD)排出量 | トン | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 産業廃棄物発生量 | トン | 124 | 110 | 167 | 137 | 80 |
| 廃棄物最終処分量 | トン | 30 | 17 | 16 | 14 | 12 |

伊勢崎工場



事業所概要

工場概要 伊勢崎工場は、ポリスチレン、塩化ビニルなどを原料とするシート・フィルムの製造を行っています。食品包装材料や電子包装材料といった、高機能でかつ徹底した品質管理が必要な用途へ製品を供給しながら、加工技術の向上と、高付加価値製品の開発に取り組んでいます。

主要製品 ●電子・先端プロダクツ部門／半導体、各種電子部品の搬送工程で使用されるキャリアテープ、トレイ、カバーテープなど
●生活・環境プロダクツ部門／各種食品包装用シートやストレッチフィルム、太陽電池モジュールのバックシート材料

所在地 【伊勢崎工場】群馬県伊勢崎市長沼町西河原245 Tel.0270-32-1251
【伊勢崎工場(太田地区)】群馬県太田市世良田町3015 Tel.0276-52-4111

従業員数 241名(2015年3月31日現在)

トップメッセージ

伊勢崎工場は、群馬県伊勢崎市の利根川近くにある伊勢崎工場と、太田市の上武国道沿いにある伊勢崎工場(太田)の2工場からなる工場で、プラスチックのフィルムやシートを生産しています。当社のCSRビジョン「『いつまでも信頼される、ものづくり企業』を目指して」に基づき、全従業員が一体になって安全を最優先に取り組み、高品質な製品を生産することが使命と考えています。また、研究開発では、地球環境に優しい新製品を開発し、さらに社会貢献できる製品を提供する工場にステップアップすることを目指しています。

地域社会から信頼され、地域とともに発展する工場を目指して、社会的責任を果たしていきたいと考えています。



執行役員 伊勢崎工場長 田口 広一

CSR方針

新たなステージを目指してステップアップしよう!

安全・衛生

- ① 全従業員が一丸となった安全活動を行い、無事故・無災害を達成し、安全に生産、安全に研究開発する文化を構築する。
- ② 働きやすい快適な職場環境を創造する。

品質

- ① 顧客要求の変化にも対応する本質的な品質改善を行う。
- ② 全従業員が一体の品質改善活動を行い、品質レベルの向上を図る。

環境

- ① 地球環境に貢献する新製品開発を推進する。
- ② 生産技術の向上による省エネ・省資源・省力化を推進する。

2014年度の活動実績と今後に向けて

安全

不安全状態の対策として、社内外の災害事例を横展開し、同種の災害の芽を摘み取る活動や、リスクアセスメントで抽出されたリスクの低減活動に取り組みました。また、指差確認呼称の定着化と、行動災害を起こさないための行動指針を一人ひとりが考えて宣言することで、不安全行動を防止する活動に注力しました。これらの活動に全員

参加で継続的に取り組んできたことにより、安全成績は着実に向上していますが、今後も風化防止を考慮しながら、安全文化の定着に努めていきます。



指差確認呼称の実施

環境

2013年以降、順次太田地区に導入した太陽光発電設備では、約400世帯の年間電力に相当する年間1,300MWhの電力を発電し、温室効果ガスの削減に寄与しています。(全量を東京電力株式会社へ供給)

また、持続可能な循環型社会の構築のために、廃棄物最終処分量ゼロに継続的に取り組み、5年連続で廃棄物ゼロエミッションを達成しています。

今後もゼロエミッションはもちろんのこと、限りある資源の有効利用のため、産業廃棄物発生量そのものについても計画的に削減を進めていきます。



屋根に張り巡らされた太陽光発電設備

コミュニケーション

従業員の一体感の醸成を目的として、労働組合と様々な行事を行っています。毎年恒例となっているボウリング大会では半数を超える従業員が参加、従業員の家族も一緒に参加するバスハイクでは、東京ディズニーランドやデンカビッグスワンスタジアムを訪れました。その他にも野外行事としてウォーキングやキックベースなど、様々な交流を図っています。また、定期的に近隣の公園や歩道の清掃活動を実施し、地域の美化・景観維持にも努めています。



ウォーキング



社外清掃



キックベース

環境パフォーマンス

| 項目 | 単位 | 11年度実績 | 12年度実績 | 13年度実績 | 14年度実績 | 15年度目標 |
|------------------------------|-----------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| エネルギー原単位 | 05年度比 | 0.99 | 0.95 | 1.02 | 1.00 | 0.93 |
| CO ₂ 排出量(エネルギー起源) | 万トン | 2 | 2 | 1.6 | 2.3 | 2.5 |
| PRTR法対象物質排出量 | トン | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| NO _x 排出量 | トン | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| SO _x 排出量 | トン | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| ばいじん排出量 | トン | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 水利用量 | 千m ³ | 422 | 483 | 427 | 433 | 433 |
| COD(BOD)排出量 | トン | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 産業廃棄物発生量 | トン | 239 | 178 | 145 | 171 | 136 |
| 廃棄物最終処分量 | トン | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |

デンカイノベーションセンター



事業所概要

研究所概要 デンカイノベーションセンターの歴史は、1962年に目黒研究所（東京都目黒区）が移転して町田に開所した、中央研究所に始まります。これまで無機化学、セラミックス、有機化学、石油化学、バイオや樹脂加工分野などで多くの基盤技術を創出し、当社の事業を確立する礎となってきました。これからもデンカグループの研究開発の中心拠点として、基盤技術のさらなる深耕を進めながら、大型次世代製品の開発や中・長期的テーマの研究開発活動に注力していきます。

所在地 東京都町田市旭町3-5-1 Tel.042-721-3611

従業員数 166名(2015年3月31日現在)

トップメッセージ

デンカグループの研究開発の拠点となる「デンカイノベーションセンター」本館を2014年4月3日に竣工し本格運用を開始しました。これを機に成長が期待されるライフサイエンス事業強化の一環として、ライフノベーション研究所をセンター内に新設するとともに、従来の組織を先進技術研究所、インフラソリューション開発研究所へ改編して3つの研究所体制とし強化いたしました。

デンカグループの総合力を結集すると共に、本センターを「オープンノベーション」の中核拠点と位置づけて、産学官との相互成長につながる共同研究を進めています。

未来を切り拓く気概を持ち、画期的な新しい製品やソリューションの創造にチャレンジして、グループ一丸となった、新たなイノベーションを起こしていきたいと思えます。



常務執行役員
研究開発・イノベーションセンター担当
清水 紀弘

CSR方針

基本方針のもと今年度の重点実施項目として、以下を挙げて活動を推進しています。

基本方針

社会への貢献と共存を目指した社会貢献活動の推進と研究開発成果の質的向上

重点実施事項

- 研究開発業務における環境負荷軽減活動への貢献と社会貢献活動の継続
- 環境負荷軽減を意識した材料・製品開発の実践と技術・プロセス開発の推進
- SQC活動の推進による研究開発成果の質的向上

2014年度の活動実績と今後に向けて

安全

安全活動と研究活動は業務の両輪と捉えて、優先的な課題として取り組んでいます。安全と環境を合わせて構築したEMS (ISO 14001) を継続しており、2015年3月に維持審査に合格しています。

今年度の基本方針は「安全最優先を基本とする無事故・無災害達成に向けた継続的改善の推進」を掲げ、全員参

加による安全諸活動を進めています。職制安全パトロール、クロスパトロール等で安全PDCAを回して無災害継続に努めています。今後も引き続きセンター内の活発なコミュニケーションを進め、きめ細かい安全活動に取り組み、安全文化醸成を推進していきます。

環境

センター本館の竣工により大幅な省エネが実現しました。LED照明、赤外線吸収ペアガラスの採用や当社の超高強度繊維補強コンクリート「SUQCEM (サクセム)®」を使用した庇やルーバーを設置したことでエネルギー効率が大幅に向上しました。また設計コンセプトの一つでもあります「緑豊かな環境」を進めており機能性と景観確保を両立させています。研究活動では、リチウム2次電池やエネルギー関連材料の開発を強化しているほか、建築土木

などのインフラ工事における省エネ工法の開発等を積極的に推進しています。



本館正面

コミュニケーション

毎年恒例の「イノベーションFESTA」を8月29日に開催、約180名の所員とその家族が参加して大盛況となりました。また地域とのコミュニケーション活動として恒例となった近隣小学校の方々の見学会を実施したほか、8月2、3日には「夢・化学・21」委員会主催の「夏休み子ども化学実験ショー」にも参加しました。

センター本館はオープンイノベーションの中核として、社内外の研究員の闊達な交流・コミュニケーションの場として使われており、次代を担う新たな化学反応が生まれる

ものと期待されています。

今後もいろいろな企画を準備して、さらなるセンターの活性化を推進していきます。



イノベーションFESTA



夏休み子ども化学実験ショー

環境パフォーマンス

| 項目 | 単位 | 11年度実績 | 12年度実績 | 13年度実績 | 14年度実績 | 15年度目標 |
|------------------------------|-----------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| エネルギー原単位 | — | — | — | — | — | — |
| CO ₂ 排出量(エネルギー起源) | 万トン | 0.1 | 0.1 | 0.1 | 0.2 | 0.1 |
| PRTR法対象物質排出量 | トン | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| NO _x 排出量 | トン | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| SO _x 排出量 | トン | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| ばいじん排出量 | トン | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 水利用量 | 千m ³ | 8 | 8 | 8 | 7 | 7 |
| COD (BOD) 排出量 | トン | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 産業廃棄物発生量 | トン | 130 | 120 | 100 | 118 | 100 |
| 廃棄物最終処分量 | トン | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |

メルバウ工場 (デンカシンガポール プライベートリミテッド)



事業所概要

工場概要 1980年にデンカがシンガポール石油化学コンプレックスプロジェクトに参画して設立された、シンガポール最初のプラントです。シンガポールの石油化学産業が集積するジュロン島において、アセチレンブラックの製造を行っています。1984年に50%プレス設備の稼働を開始し、1997年に増設を実施、2002年には粒状設備を新設しました。

所在地 Office : 4Shenton Way #29-02 SGX Centre 2, Singapore 068807
Tel.65-6225-6120
Plant : 300 Ayer Merbau Road, Singapore 628282
Tel.65-6867-8496

従業員数 50名(社員33名、内日本人1名、協力会社17名)(2015年3月31日現在)

トップメッセージ

メルバウ工場の無災害記録は、2015年7月9日で5年になりました。これに気を抜くことなく、今後も無事故・無災害を継続するため、「自分を守り、一緒に働く仲間を守る安全活動」を推進していきます。



General Manager 古賀 祐司

CSR方針

- ①無事故・無災害の継続
- ②保安基準等の設定背景、根拠の明確化と教育の実施
- ③自分を守り、一緒に働く仲間を守る安全活動の実施

2014年度の活動実績と今後に向けて

安全

- ①無災害達成(4年間)
- ②PCS社[※]との合同緊急訓練(年4回実施)
- ③従業員への事例を活用した教育強化(安全・保安) : 月1回の安全会議で実施
今後も各活動を継続して実施します。



PCS社との合同緊急訓練

※PCS社 : Petrochemical Corporation of Singapore (Pte) Ltd.

環境

- ①環境事故ゼロを達成
- ②従業員への事例を活用した教育強化(環境・衛生)を毎月実施
今後も環境事故ゼロ継続のために活動を強化していきます。

コミュニケーション

- ①安全懇談会にて全員で現状課題を議論(毎月1回)
- ②工場長による現場作業員への声掛けと作業前・中の注意喚起
今後もこれらの活動を継続していきます。



メルバウ工場一同

セラヤ工場 (デンカシンガポール プライベートリミテッド)



事業所概要

工場概要 セラヤ工場は1998年にGPPS製造プラントとして生産を開始し、2006年にはMS樹脂「TXポリマー」[®]とSBC樹脂「クリアレン」[®]プラントを増設、2012年4月にはイミド化ポリマー「デンカIP」[®]のプラントを稼働させ、4プラント合計で、年間325,000トンの生産能力となりました。工場内にはテクニカルセンターも設置する、スチレン系樹脂事業の一大拠点です。

所在地 Office : 4 Shenton Way #29-02 SGX Centre 2, Singapore 068807
Tel.65-6225-6120
Plant : 40 Seraya Avenue, Singapore 627873 Tel.65-6867-6089

従業員数 65名(日本人5名含む)(2015年3月31日現在)

トップメッセージ

セラヤ工場は1997年にポリスチレンの製造を開始し、2006年にはMS樹脂とSBC樹脂へ、2012年にはIP樹脂へ事業を拡大してDenkaを代表する製造拠点にまで成長しました。Denka創業100周年を迎えるにあたり、シンガポールナショナルスタッフとともに、次の100年へ向けて、生産活動を通じて社会の発展に貢献をしていきたいと考えています。



General Manager 川村 禎生

CSR方針

シンガポールから世界各国へビジネスを展開するにあたり、CSR推進体制強化のため、5Sに加えてもう一つのS=Satisfactionを掲げました。従業員、顧客、社会からSatisfactionを得られる工場を目指しています。

2014年度の活動実績と今後に向けて

安全

安全はすべての生産活動・企業活動に優先します。化学工場として潜在的な危険と隣り合わせの中で、法令遵守にとどまらない自発的な安全活動を継続して展開し、Good Companyを目指していきます。



シンガポール市民防衛庁(SCDF : Singapore Civil Defense Force)によるCert Audit(Cert = Company emergency response team)

環境

限りある資源を消費し生産活動を行うため、環境との共生を目指した技術改善を進めていきます。また、外部機関とも連携を深め、技術の進化・深化を図っていきます。2015年度はユーティリティーの最適化、再利用をテーマにしています。

コミュニケーション

セラヤ工場の製品を取り扱う商事会社を工場にお招きして工場見学を行うとともに、テクニカルセンターによる製品特性説明や性能検査を実際に見ていただき、製品・商品への理解を深めてもらう活動を行っています。



長瀬産業(株)各支店の皆さんとテクニカルセンター金子ダイレクター

トアス工場 (デンカアドバンテック プライベートリミテッド)



事業所概要

工場概要 トアス工場は、熔融シリカファイラーの海外生産拠点として、1991年に操業を開始しました。本製品の主用途となる半導体パッケージの高性能化、環境対応に特化した球状タイプの生産に集中し、品質向上や生産体制の強化を進めています。大牟田工場との連携のもと、当場からは中国、東南アジアの市場を中心に製品を供給しています。

所在地 Office : 4 Shenton Way #29-02 SGX Centre 2, Singapore 068807
Tel.65-6321-9530
Plant: 11A Tuas Avenue 20, Singapore 638823 Tel.65-6861-0004

従業員数 59名(日本人2名含む)(2015年3月31日現在)

トップメッセージ

トアス工場は2016年に操業開始25周年を迎えます。熔融シリカファイラーの主要生産拠点として、従業員全員で工程改善、生産技術向上に取り組み、さらなる発展を目指しています。その中で工場の保安、従業員の安全確保は安定生産の基本であります。安心して働ける職場環境を築き上げるべく、安全活動を推進しています。



General Manager 内藤 栄俊

CSR方針

- ① 工場の保安・従業員の安全を確保
- ② 省エネ、省資源推進による環境負荷低減
- ③ 品質リスク管理によるクレーム防止、顧客満足度の向上
- ④ 市場の需要・技術動向にマッチした供給体制の整備
- ⑤ 工程改善と生産技術向上によるコストダウンの推進

2014年度の活動実績と今後に向けて

安全

パトロールや緊急時対応訓練等の定例活動に加え、作業手順見直しによる危険要因抽出改善活動や、社内災害事例勉強会による類似災害防止活動を行ってきました。2015年度は安全指導者による全作業員対象の安全講習会を定期的に開催し、さらなる安全意識向上を図ります。



消防訓練



安全講習会

- ・ポリエチレンカバー、フレコンバッグ、木製パレット等のリサイクル
- ・再生プラスチックパレットの利用
- ・水道水管理システム導入による節水活動

コミュニケーション

毎月の安全懇談会の場で工場内外の種々課題につき議論しています。また、年1回、従業員表彰や従業員親睦のためにディナーパーティーを開催しています。



トアス工場一同

環境

- ・生産性向上による電力・ガス原単位の低減、省電力ライトへの切り替え等の省エネ活動

サウス工場 (デンカアドバンテック プライベートリミテッド)



事業所概要

工場概要 サウス工場は、ウィッグ・ヘアピース向け合成繊維「トヨカロン®」の製造工場として2013年6月より操業を開始しました。当社は1952年に世界に先駆けてPVC繊維の工業化に成功、現在はアフリカやアメリカの頭飾用繊維市場を中心に出荷しています。今後はアフリカ市場の一層の拡大が見込まれており、大船工場に続く第二の拠点として世界の需要に応えていきます。

所在地 Office : 4 Shenton Way #29-02 SGX Centre 2 Singapore 068807
Tel.65-6224-1305
Plant : 6 Tuas South Drive Singapore 637046 Tel.65-6412-9200

従業員数 35名(日本人1名含む)(2015年3月31日現在)

トップメッセージ

アフリカ市場向け頭飾用繊維の生産拠点として2013年6月に操業を開始してから約2年が経ちました。2014年は操業開始から続く無事故・無災害を継続することができ、また品質面ではISO 9001の認証取得や生産効率向上によるコストダウン等、種々取り組んできました。2015年度も安全体制の強化、さらなる品質向上、コストダウンの推進を行っていきます。



General Manager 黄野 隆文

CSR方針

- ① 無事故・無災害の継続と安全活動のブラッシュアップ
- ② リサイクル・省エネ推進による環境負荷低減
- ③ 生産体制強化による品質向上とコストダウン

2014年度の活動実績と今後に向けて

安全

サウス工場では、毎月安全パトロールを実施し、工場内の5S、不安全箇所・行動をチェックし、対策ミーティングにおいて各指摘事項に対する対応の検討を行っています。今後は非常時の対応の再確認と見直し、各種講習受講や資格取得を推進し、さらなる安全体制の強化を図ります。



安全パトロール

- ② 蒸気原単位削減によるボイラー燃焼時のCO₂排出量削減
- ③ 不要箇所での照明、エアコンのオフの励行

コミュニケーション

毎日の朝礼のほか、週例ミーティングでは工場内の各担当が集合して安全項目などの各課題の対応状況、今後の計画について議論しています。

さらに、隣接する他社工場と緊急時の連絡先を交換し、万が一の事態が発生した場合の相互協力に備えています。

また、社員間の親睦を深めるため、年一回ディナーパーティーを開催しています。



週例ミーティング



ディナーパーティー

環境

以下項目の活動を継続し、環境負荷低減を推進します。

- ① 生産性向上による電気、ガス、水の原単位削減

電化精細材料(蘇州)有限公司



事業所概要

工場概要 当社は、中国におけるデンカ戦後初の生産販売会社として2006年1月に設立されました。現在、電子包装材料であるキャリアテープ関連シートの原反製造及びスリット加工、ならびに食品包装用シートの製造を行っています。

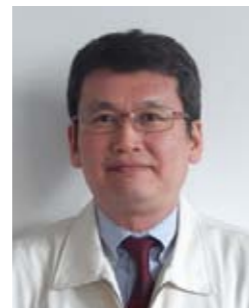
主要製品 電子包装材料用キャリアテープ・食品包装用シート

所在地 中国江蘇省蘇州市蘇州工業園区興浦路333号現代工業坊9B
Tel.86-512-6287-1088

従業員数 93名(日本人4名含む)(2015年3月31日現在)

トップメッセージ

当社は開業からもうすぐ10年を迎えます。その間、着実に営業範囲並びに業績を拡大してきたと同時に、常に環境への負荷低減及び安全に対する意識向上を心がけてまいりました。次の10年へ向けて、今後も立ち止まることなく環境・安全への努力を続け、デンカ初の中国生産拠点として、誰にでも信頼される会社を目指します。



総経理 小山 達哉

CSR方針

- ① 無事故・無災害を実現するための安全活動を継続する
- ② 法令を遵守し、環境保全への取り組みを進める
- ③ 教育・訓練を積極的に実施し、常に職場のレベルアップを図る

2014年度の活動実績と今後に向けて

安全

安全文化の構築を掲げ、中国の安全生産標準化3級を維持するに留まらず、4Sをさらに進化させた5S活動の推進、リスクアセスメントの強化などを進め、全社員で「安全で働き甲斐のある会社」を目指します。



消防訓練の様子

環境

産業廃棄物削減のため、収率の向上に継続的に取り組んでいます。その他、水や電気使用量、危険廃棄物の年

間削減目標を設定し、毎月進捗状況を確認して効果の見える化を進めています。

コミュニケーション

会社の発展と安全文化の構築には、全従業員の『和』が大切です。定期的に社内旅行を実施すると同時に、今年から新入社員に対して親会社の紹介活動を開始。帰属意識向上によるコミュニケーションの活性化を図っています。



GCP活動

電化新材料研究(蘇州)有限公司



事業所概要

工場概要 当研究所は、中国市場におけるデンカ製品の需要家から寄せられる分析、検査、性能評価、改良などの要望に迅速に応えるべく2010年12月に設立されました(営業開始2011年8月)。現在、特殊合成ゴム(クロロプレン、ER)、「ハードロック」(2液アクリル系接着剤)、コンクリート用特殊混和材の研究開発を行っているほか、2013年度からは、食品包材用機能性シート、仮固定用接着剤「テンプロック」の研究にも着手しています。

所在地 中国江蘇省蘇州市蘇州工業園区興浦路333号現代工業坊1D
Tel.86-512-6280-6808

従業員数 21名(日本人6名含む)(2015年3月31日現在)

トップメッセージ

電化新材料研究(蘇州)有限公司(DCD)は、デンカで初めての海外研究拠点として設立され、今年で5年目を迎えました。現在、クロロプレンゴム、機能性接着剤、仮固定用接着剤、コンクリート用特殊混和材及び食品包材向け機能性シートの研究開発を行っています。

「テクニカルサービス向上」、「市場ニーズへの迅速な対応」、「中国市場に適應する製品開発」を進め、中国で発生した課題は、中国で解決すべく、品質の向上に努めてまいります。



総経理 池田 哲美

CSR方針

- ① 無事故・無災害
- ② 教育・訓練の充実化による人材育成の推進
- ③ 職場環境の向上と法令遵守
- ④ 製品開発／顧客対応での品質の向上

2014年度の活動実績と今後に向けて

安全

- ① 5S、安全意識定着(安全ルール遵守/整理整頓の自己評価、安全ノート、提案制度)
- ② 安全教育の実施(体感教育、他事業所の災害事例検討、安全資料読合せ)



体感教育(ロールへの挟まれ)

- ③ 研究機器の基準書・手順書の整備
 - ・各研究機器の基準書・手順書の作成(図や写真を取り入れ、理解しやすい内容とする)
- ④ 作業環境の改善
 - クロロプレンゴム：保護具見直し
 - 機能性接着剤：ドラフトの増強
 - コンクリート用特殊混和材：排水処理設備の改善
 - 機能性シート：部材置場の整備、安全表示の充実化

環境

- ・使用した有機溶剤、試験により発生した有害性の排水類については、全て外部業者処理で対応しています。
- ・2015年1月より、改正中国環境保護法が施行され、危険物及び廃棄物の管理強化が求められており、危険物廃棄物置場の設置と安全対策及び現場表示を行いました。今後も継続し、有害性の物質は外部に出さないなどの環境への配慮を万全に対応していきます。

コミュニケーション

- | | |
|--|--|
| 〔社内活動〕 ①安全会議(1回/月) ②始業前ミーティング(毎朝) ③総経理との個人面談(1回/期) | 〔社外活動〕 ①旅行会 ②バーベキュー等の野外活動 ③忘年会等の会食 |
|--|--|

今後も「コミュニケーション」に関する活動を工夫し、社内の活性化を図っていきます。



春の野外活動(ハイキング：蘇州靈岩山)

電化無機材料(天津)有限公司



事業所概要

工場概要 当社は、中国市場でのインフラ整備・補修需要の高まりを受け、セメント・コンクリート用特殊混和材の同国初の製造拠点として2013年9月に設立されました。中国特殊混和材の事業統括会社である「電化創新(上海)商貿」、研究開発拠点となる「電化新材料研究(蘇州)」と連携して、地元材料・工法に基づく市場ニーズに、的確かつスピーディーに応える生産体制を整えています。

所在地 中国天津市西青経済技術開発区賽達機械園3号
Tel.86-22-8792-0488

従業員数 9名(日本人2名含む)(2015年3月31日現在)

トップメッセージ

デンカグループの行動指針10か条に則り、中国の実情に理解を深め、当地の文化と融合した「信頼される、ものづくり企業」を目指して、まじめで誠実な企業活動を実践してまいります。



総経理 中川 由則

CSR方針

- ①安全
安全への配慮は、事業継続上の土台・基盤であり、当社独自の安全文化の構築を進める。
- ②環境
当社の係るセメント製造事業は、当地でも環境負荷軽減を求められている。このような状況を理解し、微力ながら、前向きな取り組みを継続する。

2014年度の活動実績と今後に向けて

安全

安全行動の基本である安全ミーティング、安全唱和、保護具の完全着用等を徹底しており、着実に定着しています。今後も、管理者が率先垂範し、小さな活動から積み重ね、安全文化構築を目指すと共に、無災害を継続していきます。



安全ミーティング



安全唱和

環境

工場排水、産業廃棄物処理については、設備や処理方法等、適法処理がなされています。今後も遺漏がないように関係法令対応に取り組み、確実に対応します。また、工場内の発塵対策について、追加で設備対応を行い、労働環境の一層の改善を進めていきます。

コミュニケーション

社内では、安全ミーティングや安全活動を通じ、職場内のコミュニケーション構築を進めています。

社外では、日系企業の有志情報交換会「聊天会」や西青経済技術開発区主催のセミナーなどへ、積極的に参加しています。設立から間もない会社ですが、一步一步コミュニケーションの場を広げることを心がけています。

デンカポリマー株式会社



会社概要

会社概要 当社は1966年に設立したプラスチック軽量食品容器の総合メーカーです。デンカグループの総合力を基盤として多層・複合シートの特性を追求しながら、包装適性・デザイン・色彩などの商品価値を向上させて、多面的なパッケージの可能性に挑戦しています。

主要製品 OPS製品、惣菜容器、弁当容器、寿司容器、刺身容器、PSPトレイ、ソフライト製品、農産品容器、食品包装用ストレッチフィルム

所在地 本社：東京都江東区木場1-5-25 Tel.03-5632-9530
工場：千葉県内3カ所(佐倉、五井、香取)

従業員数 505名(2015年3月31日現在)

トップメッセージ

プラスチック食品容器を製造・販売する当社といたしましては、過去より「安全・安心」をモットーに事業展開をまいりました。

今後も、この姿勢を第一とし、お客様に誠実で信頼される企業活動を目指してまいります。また環境・省エネ活動にも一層努力し、安全で豊かな食生活を演出できる製品の開発を行ってまいりますのでございます。



代表取締役社長 坂本 剛

CSR方針

デンカポリマーは消費者に身近な商品を扱っており、「安全・安心」を会社方針としています。この「安全・安心」は顧客だけでなく、従業員や株主に対しての意味合いもあり、法令遵守・省エネ・人材育成にも努めています。

2014年度の活動実績と今後に向けて

安全

デジカメを利用したパトロールは継続して行っています。2014年度は、過去災害の分析(未熟練者・足元・挟まれ巻き込まれ災害が多発)より、安全体感装置を活用して危険への感度の向上に努めました。今後も地道な安全活動により無災害達成に注力します。



安全体感教育風景

環境

省エネ活動により毎年1%以上の省エネを実現しており、また工場内で発生する廃棄物は、基本的にリサイクル処理されていることをマニフェストにより確認しています。今後も環境負荷が少ない軽量化容器の拡大に努め、環境に配慮した生産を行ってまいります。

コミュニケーション

各工場ともに、工業団地の活動を通して、地域内清掃や地域の産業まつり等へ製品容器を提供するなどの交流を深めています。最近では3工場合同での階層別研修を行い、社会への貢献についても意識を高めています。



佐倉産業まつり参加

デンカ生研株式会社



会社概要

会社概要 デンカ生研は、ワクチンと検査試薬の供給を通じて、人々の生命と健康を守ることを使命として企業活動を行っています。創業以来「予防」をキーワードに、感染症や生活習慣病の撲滅に向けた取り組みを続けています。

主要製品 インフルエンザワクチン、細菌検査試薬、ウイルス検査試薬、臨床化学検査試薬、免疫血清検査試薬、POCT製品

所在地 本社：東京都中央区日本橋室町2-1-1 Tel.03-6214-3231
工場：新潟県五泉市(新潟工場、鏡田工場)

従業員数 628名(2015年3月31日現在)

トップメッセージ

ワクチンと検査試薬という人々の健康を守る製品を製造する企業として、高品質な製品を安定的に供給することが当社の最大の社会的使命です。これからも世界で必要とされる製品の開発・製造を通じて感染症や各種疾病の脅威に挑んでいきたいと考えています。



代表取締役社長 前田 哲郎

CSR方針

「いのちを尊び、人々の健康を守ることを使命として、社会から信用される企業を目指す」という企業理念に基づき、健康増進への貢献・地域との共生・環境負荷の低減などに積極的に取り組んでまいります。

2014年度の活動実績と今後に向けて

安全

職場のコミュニケーションの活性化を図り、リスクアセスメント等の手法を工夫することにより、全員で職場のリスク低減に取り組む活動を展開しています。また、防災訓練等を行って緊急時の対応にも備え、全社で安心・安全な職場作りを進めていきます。



新潟工場での防災訓練の風景

環境

周辺を住宅地に囲まれている新潟工場では、騒音や臭気等の環境影響には常に最大限の注意を払っています。環境モニター制度等の地域と密着した取り組みを通じて着実に環境改善を進め、地域から信頼される活動を継続します。

コミュニケーション

健康を支える企業として地元で開催されるスポーツイベントを積極的に後援しています。

デンカがユニフォームスポンサーを務める女子バスケットボールトップリーグの新潟アルビレックスBBラビッツは、毎年五泉市内で公式戦を開催しており、当社もワンデー・スポンサーとして試合をサポートすると共に地域との交流を図っています。



BBラビッツ、五泉での試合風景

シー・アール・ケイ株式会社



会社概要

会社概要 当社は1963年に、クロロプレンゴムを原料とするコンパウンドおよび成形品の開発・製造・販売を目的として、デンカと高崎市の地元資本が共同出資して設立されました。長年の研鑽と熟練技術を基盤として、土木・建材用止水材・耐火材などに対象分野を広げ、現在は天然ゴムや合成ゴム全般のコンパウンドと加工製品の製造販売を行っています。

主要製品 各種ゴムコンパウンド、工業用ゴム製品、熱膨張性耐火ゴム製品、ブチル系粘着テープ、水膨張止水テープ、マンホール用耐震性ジョイント

所在地 群馬県高崎市小八木町306 Tel.027-362-7510

従業員数 67名(2015年3月31日現在)

トップメッセージ

私たちの生活の中でゴムは欠かせない材料であり、ゴムを練る作業や加工することは、必ず必要とされる仕事です。信頼される製品を供給することで社会に貢献していることを従業員全員が認識し、誇りを持って、より安全に就業できる会社を目指しています。



代表取締役社長 荒輪 裕方

CSR方針

お客様、地域と共に繁栄出来るような品質、環境に配慮し、併せて安定した生産を継続できるよう安全を確保すべく5S活動を含め、業務全般の改善を進めていきます。

2014年度の活動実績と今後に向けて

安全

毎月の講話や毎日の朝礼で、全員に安全に関する話題を提供しています。工場内全域の照度測定を行い、作業毎に適した照明の見直しも行いました。今後も老朽化したロールなどの設備の改善を進めていきます。

環境

廃棄物削減について、リサイクル率を更に向上させる取り組みを行っています。また、省エネの取り組みとして照明のLED化や遮熱塗料による塗装などを行い、大きな効果が得られています。定期的に構内及び周辺道路の除草・清掃も行っています。



構内清掃

コミュニケーション

工業団地や地域の行事に積極的に参加するとともに、主要顧客にアンケート調査を毎年行い、結果を解析して改善を行っています。社内バーベキューや懇親会、コンペなども定期的に行っています。



社内バーベキュー

日之出化学工業株式会社



会社概要

会社概要 当社は1949年に設立され、翌1950年に世界に先駆けて開発した磷酸質肥料「ようりん」の生産を開始しました。以来日本のトップメーカーとして、品質の向上と新品種の開発、需要開拓に努め、豊かな土づくりを通して農作物の増産に貢献しています。

主要製品 磷酸質肥料「ようりん」、BMようりん、^{ようせいけいりん} 熔成珪酸磷肥「とれ太郎」、混合肥料、化成肥料

所在地 京都府舞鶴市宇倉谷660 Tel.0773-75-5760

従業員数 45名(2015年3月31日現在)

トップメッセージ

当社は、日本最初の熔成磷肥(ようりん)メーカーとして、1949年に設立されました。土づくり肥料として親しまれ、現在使用されている磷酸質肥料の中では、当社が唯一、有機農産物適合資材として認定を受け、安全で環境にやさしい肥料として評価を得ています。

今後ともこれまで培ってきた伝統ある技術を活かして、ニーズに応えられる新製品開発と技術の継承に努力いたします。



代表取締役社長 高木 静雄

CSR方針

基本方針

肥料の製造を通じて社会に貢献し、従業員の自己実現を目指す

環境方針

環境マネジメント活動(KESステップ2)を推進して、地球環境との調和を目指す

安全方針

自分と仲間の安全を確保して考動!

品質方針

ワンパス収率を意識して工程管理を強化する

2014年度の活動実績と今後に向けて

安全

リスクアセスメント活動を主体に、リスク低減に取り組んでいます。現地で作業者を交えて問題点を話し合い、プロジェクト体制で工程改善を推進しています。

*2014年度の改善提案件数は171件(前年比1.8倍)と、大きな成果が得られました。



安全集会

者は中和技術の試行と設備化、後者は原料の選定を含めた改善を推進しています。

また、工場近隣の清掃美化活動も継続しています。



伊佐津川周辺の清掃活動

*KES: 京都議定書の発祥地。京都が発信する「環境マネジメントシステム」規格。ステップ2は規模の比較的大きな事業所が取り組む規格で、ISO14001とほぼ同じ項目を実施するものです。

コミュニケーション

事前KYミーティングと改善案件への対応を通して、作業中との対話に意識して取り組んでいます。

社内旅行や組織の一体感が得られる機会を増やして、一層のコミュニケーション向上を目指します。

環境

環境マネジメント活動(KES*ステップ2)を主体に、排水系と排ガス系の更なる技術改善に取り組んでいます。前

デンカアヅミン株式会社



会社概要

会社概要 当社は日本重化学工業の花巻工場として1962年に設立され、翌年よりアヅミンの生産・販売を開始いたしました。2003年の日本重化学工業から電気化学工業への事業譲渡に伴い、腐植酸関連肥料の生産を目的とした「デンカアヅミン株式会社」となりました。今後も、腐植酸肥料のパイオニアとして、農業生産に貢献してまいります。

主要製品 「アヅミン」(腐植酸苦土肥料)

所在地 岩手県花巻市二枚橋第5地割118 Tel.0198-26-2131

従業員数 28名(2015年3月31日現在)

トップメッセージ

当社は土壌改良資材「アヅミン」を50年にわたって製造してきておりますが、硝酸、重油等の危険物を取り扱っています。従業員に対し、毎年これらの取扱い教育を実施し、無事故・無災害を継続してきておりますが、今後とも精進してまいりたいと考えております。



代表取締役社長 中村 守

CSR方針

- ① 無事故・無災害の継続 (当面の目標: 1,500日)
- ② 環境保全管理の遂行
- ③ 地域住民との信頼関係の醸成

2014年度の活動実績と今後に向けて

安全

- ・毎月1回、各小委員会(KY・ヒヤリハット、安全パトロール、省エネ、物流)から報告を受け、工場としての方針周知と対策立案を行ってきました。2014年9月8日に1,000日間の無事故・無災害を達成し、年度末には、1,204日を達成、さらなる継続に向けて取り組んでいきます。
- ・入社後数年未満の若手社員が各現場に配置されており、安全行動の意識付け、習慣化が重要と考えています。
- ・現場特有の危険因子である「硝酸」の安全な取扱いについて教育を進め、漏洩事故防止対策を進めていきます。万が一の事故発生時においても、慌てることなく、安全を確保し、かつ工場外への環境影響を最小限に止めるための対策として、消防当局と連携しながら訓練を行っており、今後も継続する予定です。



硝酸漏洩事故を想定した花巻消防署との合同訓練(2014年10月31日)

環境

- ・花巻市と締結している公害防止協定に基づき、大気、水質、騒音、振動を測定し、基準内であることを報告しました。
- ・現場特有の問題である「NOx」を更に低減する方法については、引き続き調査を進めていきます。

コミュニケーション

- ・地域住民との関係では、地元「二枚橋地区公害対策協議会」の工場見学を年2回開催するとともに、総会や懇親会へも出席しました。引き続き良好なコミュニケーションの形成に努めていきます。
- ・2014年度も花巻市主催の「はなまき産業大博覧会」に展示を行い、近隣の方々にアヅミン肥料の認識を広げることができました。



「はなまき産業大博覧会2014」出展の様子(11月30日)

環境パフォーマンス

デンカシンガポール プライベートリミテッド メルバウ工場

| 項目 | 単位 | 11年度実績 | 12年度実績 | 13年度実績 | 14年度実績 | 15年度目標 |
|------------------------------|-----------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| エネルギー原単位 | — | — | — | — | — | — |
| CO ₂ 排出量(エネルギー起源) | 万トン | 0.3 | 0.3 | 0.4 | 0.4 | 0.4 |
| PRTR法対象物質排出量 | — | — | — | — | — | — |
| NOx排出量 | トン | 1.2 | 0.5 | 0.5 | 0.5 | 0.5 |
| SOx排出量 | トン | — | — | 0 | 0 | 0 |
| ばいじん排出量 | トン | — | — | 0 | 0 | 0 |
| 水利用量 | 千m ³ | — | 34 | 44 | 51 | 50 |
| COD(BOD)排出量 | トン | 0.1 | 0.1 | 0.1 | 0.1 | 0.1 |
| 産業廃棄物発生量 | トン | 151 | 332 | 336 | 315 | 317 |
| 廃棄物最終処分量 | トン | — | — | — | — | — |

デンカシンガポール プライベートリミテッド セラヤ工場

| 項目 | 単位 | 11年度実績 | 12年度実績 | 13年度実績 | 14年度実績 | 15年度目標 |
|------------------------------|-----------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| エネルギー原単位 | — | — | — | — | — | — |
| CO ₂ 排出量(エネルギー起源) | 万トン | 2.9 | 3.4 | 3.0 | 3.3 | 3.4 |
| PRTR法対象物質排出量 | — | — | — | — | — | — |
| NOx排出量 | トン | 4.6 | 4.6 | 4.6 | 4.6 | 5 |
| SOx排出量 | トン | 0.9 | 0.9 | 0.9 | 0.9 | 0.9 |
| ばいじん排出量 | トン | — | — | 0 | 0 | 0 |
| 水利用量 | 千m ³ | 58 | 98 | 98 | 105 | 105 |
| COD(BOD)排出量 | トン | 1.9 | 3.2 | 3.2 | 3.5 | 3.5 |
| 産業廃棄物発生量 | トン | 232 | 1,948 | 1,713 | 2,065 | 2,250 |
| 廃棄物最終処分量 | トン | — | — | — | — | — |

デンカアドバンテック プライベートリミテッド トアス工場

| 項目 | 単位 | 11年度実績 | 12年度実績 | 13年度実績 | 14年度実績 | 15年度目標 |
|------------------------------|-----------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| エネルギー原単位 | — | — | — | — | — | — |
| CO ₂ 排出量(エネルギー起源) | 万トン | 2.7 | 2.6 | 2.5 | 2.0 | 2.3 |
| PRTR法対象物質排出量 | — | — | — | — | — | — |
| NOx排出量 | トン | 548 | 322 | 501 | 590 | 650 |
| SOx排出量 | トン | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| ばいじん排出量 | トン | — | — | 0 | 0 | 0 |
| 水利用量 | 千m ³ | 105 | 99 | 97 | 84 | 91 |
| COD(BOD)排出量 | トン | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 産業廃棄物発生量 | トン | 503 | 383 | 411 | 331 | 365 |
| 廃棄物最終処分量 | トン | 449 | 348 | 381 | 306 | 340 |

デンカアドバンテック プライベートリミテッド サウス工場

| 項目 | 単位 | 11年度実績 | 12年度実績 | 13年度実績 | 14年度実績 | 15年度目標 |
|------------------------------|-----------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| エネルギー原単位 | — | — | — | — | — | — |
| CO ₂ 排出量(エネルギー起源) | 万トン | — | — | 0.2 | 0.4 | 0.4 |
| PRTR法対象物質排出量 | — | — | — | — | — | — |
| NOx排出量 | トン | — | — | 0.6 | 1.4 | 1.4 |
| SOx排出量 | トン | — | — | 0 | 0 | 0 |
| ばいじん排出量 | トン | — | — | 0 | 0.1 | 0.1 |
| 水利用量 | 千m ³ | — | — | 3 | 10 | 10 |
| COD(BOD)排出量 | トン | — | — | 0 | 0 | 0 |
| 産業廃棄物発生量 | トン | — | — | 140 | 404 | 311 |
| 廃棄物最終処分量 | トン | — | — | 0 | 0 | 0 |

電化精細材料(蘇州)有限公司

| 項目 | 単位 | 11年度実績 | 12年度実績 | 13年度実績 | 14年度実績 | 15年度目標 |
|------------------------------|-----------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| エネルギー原単位 | — | — | — | — | — | — |
| CO ₂ 排出量(エネルギー起源) | 万トン | — | — | 0.1 | 0.1 | 0.1 |
| PRTR法対象物質排出量 | — | — | — | — | 1.4 | 1.4 |
| NOx排出量 | トン | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| SOx排出量 | トン | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| ばいじん排出量 | トン | — | — | 0 | 0 | 0 |
| 水利用量 | 千m ³ | 1.8 | 1.8 | 1.8 | 1.8 | 1.8 |
| COD(BOD)排出量 | トン | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 産業廃棄物発生量 | トン | 99 | 130 | 112 | 109 | 108 |
| 廃棄物最終処分量 | トン | 99 | 130 | 112 | 109 | 108 |

電化新材料研究(蘇州)有限公司

| 項目 | 単位 | 11年度実績 | 12年度実績 | 13年度実績 | 14年度実績 | 15年度目標 |
|------------------------------|-----------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| エネルギー原単位 | — | — | — | — | — | — |
| CO ₂ 排出量(エネルギー起源) | 万トン | — | 0 | 0 | 0 | 0 |
| PRTR法対象物質排出量 | — | — | — | — | — | — |
| NOx排出量 | トン | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| SOx排出量 | トン | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| ばいじん排出量 | トン | — | — | 0 | 0 | 0 |
| 水利用量 | 千m ³ | 0.2 | 0.3 | 0.9 | 0.4 | 0.5 |
| COD(BOD)排出量 | トン | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 産業廃棄物発生量 | トン | 1 | 9 | 19 | 23 | 41 |
| 廃棄物最終処分量 | トン | 1 | 9 | 18 | 7 | 16 |

電化無機材料(天津)有限公司

| 項目 | 単位 | 11年度実績 | 12年度実績 | 13年度実績 | 14年度実績 | 15年度目標 |
|------------------------------|-----------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| エネルギー原単位 | — | — | — | — | — | — |
| CO ₂ 排出量(エネルギー起源) | 万トン | — | — | — | 0 | 0 |
| PRTR法対象物質排出量 | — | — | — | — | — | — |
| NOx排出量 | トン | — | — | — | 0.1 | 0.1 |
| SOx排出量 | トン | — | — | — | 0 | 0 |
| ばいじん排出量 | トン | — | — | — | 0 | 0 |
| 水利用量 | 千m ³ | — | — | — | 0.4 | 0.5 |
| COD(BOD)排出量 | トン | — | — | — | 0 | 0 |
| 産業廃棄物発生量 | トン | — | — | — | 8 | 11 |
| 廃棄物最終処分量 | トン | — | — | — | 8 | 11 |

デンカポリマー株式会社

| 項目 | 単位 | 11年度実績 | 12年度実績 | 13年度実績 | 14年度実績 | 15年度目標 |
|------------------------------|-----------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| エネルギー原単位 | — | — | — | — | — | — |
| CO ₂ 排出量(エネルギー起源) | 万トン | 1.2 | 1.2 | 1.2 | 1.3 | 1.3 |
| PRTR法対象物質排出量 | トン | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| NOx排出量 | トン | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| SOx排出量 | トン | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| ばいじん排出量 | トン | — | — | 0 | 0 | 0 |
| 水利用量 | 千m ³ | 0 | 0 | 0 | 30 | 34 |
| COD(BOD)排出量 | トン | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 産業廃棄物発生量 | トン | 112 | 103 | 113 | 146 | 140 |
| 廃棄物最終処分量 | トン | 2.1 | 0 | 0 | 0 | 0 |

環境パフォーマンス

デンカ生研株式会社

| 項目 | 単位 | 11年度実績 | 12年度実績 | 13年度実績 | 14年度実績 | 15年度目標 |
|------------------------------|-----------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| エネルギー原単位 | — | — | — | — | — | — |
| CO ₂ 排出量(エネルギー起源) | 万トン | 1.5 | 1.5 | 1.5 | 1.6 | 1.7 |
| PRTR法対象物質排出量 | トン | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| NOx排出量 | トン | 5 | 4 | 3 | 4 | 4 |
| SOx排出量 | トン | 3 | 2 | 3 | 1.5 | 1.5 |
| ばいじん排出量 | トン | — | — | 0 | 0 | 0 |
| 水利用量 | 千m ³ | 536 | 674 | 440 | 702 | 720 |
| COD(BOD)排出量 | トン | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 産業廃棄物発生量 | トン | 386 | 337 | 275 | 935 | 970 |
| 廃棄物最終処分量 | トン | 48 | 41 | 42 | 48 | 50 |

シー・アール・ケイ株式会社

| 項目 | 単位 | 11年度実績 | 12年度実績 | 13年度実績 | 14年度実績 | 15年度目標 |
|------------------------------|-----------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| エネルギー原単位 | — | — | — | — | — | — |
| CO ₂ 排出量(エネルギー起源) | 万トン | 0.1 | 0.1 | 0.1 | 0.1 | 0.1 |
| PRTR法対象物質排出量 | トン | 0.1 | 0.1 | 0.1 | 0 | 0 |
| NOx排出量 | トン | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| SOx排出量 | トン | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| ばいじん排出量 | トン | — | — | 0 | 0 | 0 |
| 水利用量 | 千m ³ | 73 | 74 | 75 | 74 | 74 |
| COD(BOD)排出量 | トン | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 産業廃棄物発生量 | トン | 80 | 75 | 84 | 80 | 80 |
| 廃棄物最終処分量 | トン | 27 | 34 | 37 | 30 | 30 |

日之出化学工業株式会社

| 項目 | 単位 | 11年度実績 | 12年度実績 | 13年度実績 | 14年度実績 | 15年度目標 |
|------------------------------|-----------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| エネルギー原単位 | — | — | — | — | — | — |
| CO ₂ 排出量(エネルギー起源) | 万トン | 2.2 | 2.3 | 2.4 | 2.2 | 2.2 |
| PRTR法対象物質排出量 | トン | 3 | 3 | 5 | 4 | 4 |
| NOx排出量 | トン | 220 | 177 | 190 | 208 | 190 |
| SOx排出量 | トン | 130 | 173 | 118 | 101 | 100 |
| ばいじん排出量 | トン | — | — | 10.3 | 6.6 | 6 |
| 水利用量 | 千m ³ | 1,390 | 1,570 | 1,880 | 1,333 | 1,333 |
| COD(BOD)排出量 | トン | 2.1 | 2.3 | 2.2 | 2.1 | 2 |
| 産業廃棄物発生量 | トン | 83 | 103 | 244 | 54 | 54 |
| 廃棄物最終処分量 | トン | 41 | 38 | 184 | 4 | 4 |

デンカアヅミン株式会社

| 項目 | 単位 | 11年度実績 | 12年度実績 | 13年度実績 | 14年度実績 | 15年度目標 |
|------------------------------|-----------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| エネルギー原単位 | — | — | — | — | — | — |
| CO ₂ 排出量(エネルギー起源) | 万トン | 0.6 | 0.6 | 0.5 | 0.6 | 0.6 |
| PRTR法対象物質排出量 | トン | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| NOx排出量 | トン | 35 | 27 | 29 | 26 | 27 |
| SOx排出量 | トン | 2 | 1 | 2 | 1 | 1 |
| ばいじん排出量 | トン | — | — | 122 | 123 | 123 |
| 水利用量 | 千m ³ | 596 | 596 | 596 | 603 | 604 |
| COD(BOD)排出量 | トン | 4 | 2 | 4 | 2.4 | 3 |
| 産業廃棄物発生量 | トン | 24 | 37 | 78 | 43 | 45 |
| 廃棄物最終処分量 | トン | 32 | 44 | 63 | 37 | 38 |